

授業科目	事例研究（観光地理） Case Study (Tourism Geography)			担当教員	池永 正人																	
展開方法	演習	単位数	2 単位	開講年次・時期	1・2 年／後期	必修・選択	選択															
授業のねらい																						
テーマ：観光地の地域構造の解明 到達目標：観光地における観光資源の活用法と諸問題、将来計画などを巡検により実証的に理解する。																						
観点	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率																
関心・意欲 ・態度	地域の自然や産業、歴史や文化に関心を抱き、調査・研究に意欲的に取り組むことができる。				野外巡検	10%																
思考・判断	観光地域の特性や問題点を見出す観察力を養うことができる。				野外巡検	20%																
技能・表現	地域調査の方法やレポートの書き方およびプレゼンテーションの技法を身に付けることができる。				野外巡検 研究成果レポート 研究発表	20% 30% 10%																
知識・理解	観光地域の事象に関する自然科学や人文・社会科学の専門知識を修得できる。				事前・事後学修	10%																
出席						受験要件																
合計						100%																
評価基準および評価手段・方法の補足説明																						
<ul style="list-style-type: none"> ・演習は野外巡検である。 ・評価は、野外巡検、研究成果レポート、研究発表、事前・事後学修を総合して行う。 																						
授業の概要																						
授業は講義と討論を織り交ぜながら行う。巡検地は国内外の主要な観光地とし、フィールドワークの一連のプロセスは、以下に示すとおりである。																						
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">①巡検地の選定</td> <td style="width: 45%;">調査・研究の目的や意義を熟慮して選定</td> <td style="width: 45%;"></td> </tr> <tr> <td>②研究内容の検討</td> <td>巡検地に関する文献・資料の分析</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③現地調査</td> <td>観察や聞き取りを実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④レポート作成</td> <td>調査結果の分析・整理</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤研究成果の発表</td> <td>口頭で発表し、質疑応答による研究成果の評価</td> <td></td> </tr> </table>								①巡検地の選定	調査・研究の目的や意義を熟慮して選定		②研究内容の検討	巡検地に関する文献・資料の分析		③現地調査	観察や聞き取りを実施		④レポート作成	調査結果の分析・整理		⑤研究成果の発表	口頭で発表し、質疑応答による研究成果の評価	
①巡検地の選定	調査・研究の目的や意義を熟慮して選定																					
②研究内容の検討	巡検地に関する文献・資料の分析																					
③現地調査	観察や聞き取りを実施																					
④レポート作成	調査結果の分析・整理																					
⑤研究成果の発表	口頭で発表し、質疑応答による研究成果の評価																					
(実績) 2006 年度：阿蘇カルデラツーリズム 2007 年度：台湾・国家森林遊楽区の維持管理と観光 2008 年度：雲仙の火山・温泉観光 2009 年度：雲仙温泉周辺の観光資源 2010 年度：阿蘇の自然と伝統文化 2011 年度：雲仙温泉の町並み整備 2013 年度：由布院温泉観光の現状 2018 年度：小浜温泉の温泉バイナリー発電とまち歩き観光 2021 年度：阿蘇の火山・草原観光 2022 年度研究地域 授業で検討して決定する。																						
教科書・参考書																						
教科書：授業で研究地域を決定した後、関連する図書を指定する。 参考書：池永正人著『観光地理学入門—美観の観光資源の活用—』, 同文館出版, 2021 年																						
授業外における学修及び学生に期待すること																						
観光地の地域性を科学的に解明するためには、「観察」→「分析」→「法則の発見」のプロセス、すなわち帰納的手法を用いる必要がある。観光地の現象や事実を客観的に分析し、普遍性を見出す研究能力を身に付けてほしい。																						

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	演習の内容	過年度の実績と新年度の演習計画を説明する。	予習：シラバスの読み 復習：演習計画の確認
2	野外巡検地の選定	野外巡検（観光地）の目的・場所・日程等について検討する。	予習：野外巡検地の提案 復習：巡検地の文献調べ
3	巡検地の事前学修①	研究内容に関する文献・資料を輪読する。	予習：巡検地の文献読み 復習：文献の要点整理
4	巡検地の事前学修②	文献・資料を輪読する。	予習：巡検地の文献読み 復習：文献の要点整理
5	巡検地の事前学修③	地形図を用いて土地利用図を作成し、現象を分析する。	予習：土地利用図の作成 復習：続図の整理
6	巡検地の事前学修④	観光施設等の観察調査の調査票を作成する。	予習：調査項目の考案 復習：調査票の項目整理
7	野外巡検の準備	野外巡検の日程・調査票・持参品等の確認をする。	予習：調査内容の確認 復習：持参品等の準備
8	野外巡検（人文観光地）	紅葉の美しい11月に、観光地を1日調査する。	予習：巡検地の文献読み 復習：調査結果の整理
9	レポート作成要領	観光地調査結果レポートの作成要領を提示する。	予習：調査結果の整理 復習：調査結果の整理
10	収集文献・資料の分析	現地で収集した文献・資料を輪読し、内容を分析する。	予習：文献・資料の読み 復習：レポート執筆
11	レポート提出	観光地調査結果レポートを提出する。	予習：レポート執筆 復習：発表内容の検討
12	研究発表（前半）	作成したレポートをもとに、授業内で個別に口頭発表する。	予習：発表の準備 復習：指摘内容の整理
13	研究発表（後半）	前回に続けて、口頭発表する。	予習：発表の準備 復習：指摘内容の整理
14	レポートの修正	添削したレポートについて、個別指導を行う。	予習：レポートの加筆修正 復習：レポートの加筆修正
15	レポートの受理	修正した観光地調査結果レポートを提出する。	予習：レポート提出の準備 復習：文献・資料の整理